



<展覧会 開催のお知らせ>

UNPEL GALLERY（アンペルギャラリー）では、運営母体であるあいおいニッセイ同和損保のメセナ活動として、全国の大学・美術大学と連携し日本画を学ぶ学生、卒業生に発表の場を提供しております。

この企画は、日本画を志す若手作家の育成と共に、各地域の文化芸術の支援活動を通じてあいおいニッセイ同和損保の活動指針である「地域密着」を具体化する取り組みです。

2023 年は、昨年の 7 校から新たに 2 校の美術大学を加え、9 校の若手日本画作家がそれぞれの作品を発信するロングラン企画（2 月～8 月）となります。

今回は、4 月 8 日（土）から「東北芸術工科大学日本画コース卒業生二人展 神谷恵×古田和子」を開催いたします。

■タイトル / 「あめつちの詞」

～第 16 回大学日本画展

<東北芸術工科大学日本画コース卒業生二人展 神谷恵×古田和子>～

■会 期 / 2023 年 4 月 8 日(土)～4 月 23 日(日) 11:00～19:00 *最終日 17:00 まで

<月曜定休>【入場無料】

*新型コロナ感染拡大の状況により、開廊日や営業時間を変更する可能性があります

ご来廊の前には必ずギャラリー の HP/ <https://unpel.gallery> または Twitter/ https://twitter.com/unpel_gallery/ をご確認ください

■会 場 / UNPEL GALLERY

東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F

■参加作家名（ふりがな）

・神谷 恵（かみや めぐみ） ・古田 和子（ふるた かずこ）

■展覧会内容

東北芸術工科大学日本画コースを卒業した、神谷恵と古田和子による二人展『あめつちの詞』を開催いたします。展覧会タイトルの『あめつちの詞』は「あめ、つち、ほし、そら、やま、かは、みね、たに、くも、きり、むろ、こけ、ひと、いぬ、うへ、すゑ、ゆわ、さる、おふせよ、えのえを、なれみて」の重複しない仮名 48 文字から成る手習い言葉として使われた誦文（呪文）です。この誦文の中には、天地や星、山や川など大きな自然が出てくる一方で、人や犬など身近なものが登場し、雄大な世界と人々の繋がりを感じさせます。また、2 音節の言葉の連なりは終盤でかたちを崩していき、「おふせよ」以降の句の意味は不明で定説はありません。しかしながら、自然の形を模した言葉たちが独自の言語として自立していったと考えると面白くはないでしょうか。

私たちが日本画を学んだ東北芸術工科大学も、自然が身近な山形の地にあります。山形の天、地、星、空、山などの自然から学んだ表現は、それらとの繋がりを意識しながらも独自の表現へと発展していきました。

遠く離れた様に感じる大きな世界も、私たちの生活やそこで起きる小さな事がらとどこかで繋がっている、そんな二名それぞれの「あめつちの詞」をご堪能いただけましたら幸いです。

各作家 150 号程度の作品 2 点、他 100 号～0 号約 20 点展示予定

■主 催 / 東北芸術工科大学

■企 画 / UNPEL GALLERY

■協 賛 / あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

<ご連絡・お問い合わせ先>

■ギャラリーオフィス 11:00～19:00 月曜定休（担当 / 中島・内城）

E-mail / tsubaki@un-pel.com <https://unpel.gallery/>

TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781

* お問い合わせは E-mail にてお願いします

●作家プロフィール

神谷 恵 KAMIYA Megumi

2017 東北芸術工科大学 芸術学部美術科日本画コース 卒業

2019 東北芸術工科大学 芸術文化専攻日本画領域 修了

現在 日本美術院 院友

【個展】

2018 「Kaleidoscope」 GALLERY ART POINT.bis (東京)

2020 「Layered 神谷恵日本画展」 仙台三越アートギャラリー (宮城)

2022 「Cross Dissolve」 ぎやらりい朋 (東京)

【グループ展】

2017 「再興第 102 回院展」 東京都美術館 (東京) (以降、' 18' 19' 21' 22 年入選)

2018 「第 73 回春の院展 入選」 日本橋三越本店 (東京) (以降、' 21 年入選)

2021 「東北のいぶき gallery select 東北芸術工科大学卒業・修了生選抜展」 銀座スルガ台画廊 (東京)

「日本画 4 人展『 MA 』」 アートスペース羅針盤 (東京)

「anywhere but here IV」 フリュウ・ギャラリー (東京)

2022 「夏といえば展」 月ノ出画廊 (東京)

「新鋭日本画 野桜会展」 恵埜画廊 (山形)

「七輪彩 2020」 Gallery 風 (東京)

「第五弾 日本画解放区」 Bunkamura Gallery (東京)

2023 「ふゆといえば…展」 月ノ出画廊 (東京)

【賞歴】

2016 第 2 回石本正日本画大賞展 奨励賞

2017 神山財団芸術支援プログラム奨学第 4 期生

広大なものを目の前にした時に感じる、自身の小さや、今いる場所や状況からふわりと宙に浮くような没入感を作品に落とし込みたいと思い制作をしています。宇宙を目の前にするとあまりの大きさに圧倒されますが、大きな天の川も数多の恒星が集まってできている事を考えると、極大と極小のものがひとつながりである事を感じます。その為、宙と日常的なものと一緒に描くことを大切にしています。



「眩めく夜」 高知麻紙、岩絵具、胡粉、箔、透明樹脂 2190mm×6960mm 2019 年

古田 和子 FURUTA Kazuko

2013 東北芸術工科大学芸術学部美術科日本画コース卒業
2015 東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科芸術文化専攻修士課程修了

【個展】

2016 「鹿画廊 | 2015-2016・冬」 はまぐり堂・高見（宮城）（以降、' 17' 18）
2017 「鹿の目」 はまぐり堂・高見（宮城）
2018 「世田谷区芸術アートアワード” 飛翔” 受賞記念展覧会」 世田谷美術館（東京）
2019 「はまぐり堂アートプロジェクト『魚のなきごえ』 vol.1 古田和子展」 はまぐり堂・高見（宮城）
2021 「N.E.blood 21 vol.75 古田和子展」 リアス・アーク美術館（宮城）
「モーメント」 Cyg art gallery（岩手）
2023 「sometime piece」 ヨロコビ to ギャラリー（東京）

【グループ展】

2014 「ひじおりの灯 2014」 大蔵村肘折温泉街（山形）（以後毎年参加）
2015 「土祭」 旧濱田庄司邸（栃木）
2016 「山形ビエンナーレ | 東北画は可能か？～地方之国現代美術展～」 東北芸術工科大学（山形）
2017 「リトル・フォレスト-漆と日本画の3人展-」 art space morgenrot（東京）（以降、' 19' 21' 22）
2019 「TAMA VIVANT II 2019 / ART・漂う場所として」 多摩美術大学八王子キャンパスアートテークギャラリー（東京）
2020 「アマダレ 2020 九島優・古田和子・南靖子」 画廊翠巒（群馬）

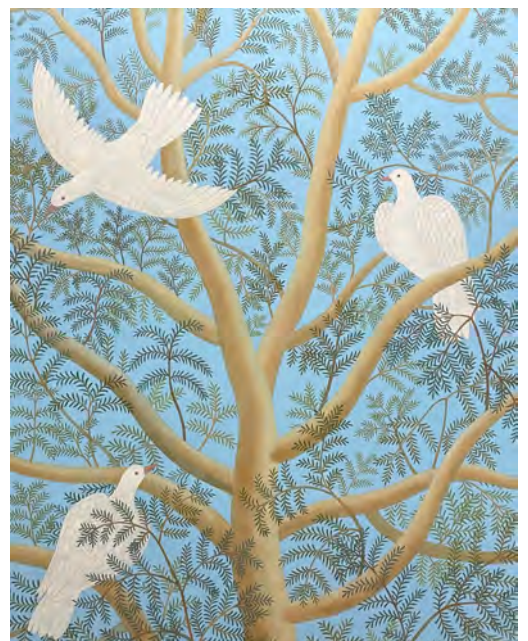
【賞歴】

東北芸術工科大学修了作品展 優秀賞
第5回世田谷区芸術アワード“飛翔” 美術部門
第5回星乃珈琲店絵画コンテスト 岡村桂三郎賞

土地に生息する動物や植物の営みをモチーフに絵を描いています。牡鹿半島に生息する鹿。益子町の大きなアカメガシワを訪れるキビタキの群れ。そこにある生活やかつての記憶を見聞きすると、大きな世界が根っこの部分で自分自身と繋がっていきように思えます。日々新しく生まれるこの世界と記憶をかたちに残したいです。



「風の音をきく」 岩絵具、寒冷紗 2303×1825mm 2020 年



「風の音」 紙本彩色 1303×894mm 2023 年